

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4073100358		
法人名	株式会社 筑紫館		
事業所名	ライフケアホーム春日苑		
所在地	福岡県春日市天神山6-22-3 〒816-0855 (電話) 092-575-6677		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年9月1日	評価確定日	平成21年9月14日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療に従事していた管理者が、何らかの形で社会貢献したいという想いをもち、家族、地域、行政と連携をとりながら高齢者の暮らしを支える方針を理念として6年前に開設したホームである。当初より継続してきた地域交流の結果、本年度はリハビリ収集活動による車椅子贈呈や、民生委員の避難訓練への参加等の成果があった。運営推進会議にも地域、行政等から複数のメンバーが参加し、理念の通り、家族・行政・地域・職員が一体となった支援体制がある。この1年の改善への取組みとして、記録の充実や重度化・看取り介護への支援がある。ホームでの看取りは初めての経験であったが、看護師である管理者の指導のもと、職員一丸となって取り組んだ。職員の心の中では、見送った方々の微笑みが今でも残っているという。今後とも、利用者が「笑顔」で暮らせる支援を大いに期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 8 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 6 人	非常勤 15 人 常勤換算 15.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての～ 1、2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(200,000 円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり	1,500 円程度		

(4) 利用者の概要(8 月 8 日現在)

登録人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	1 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	62 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二日市病院 樋口医院 アビロ材イ デンタルオフィス プルメリア ひのでクリニック
---------	--

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の概要、インターネットによる開示等については、家族会や運営推進会議にて発表している。前回の評価結果は職員会議等にて協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、記録様式の改定や充実等の成果が見られた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員に意見を聞きながら、計画作成担当者が確認し、意見をまとめて入力するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	区長、隣組長、民生委員、地域ボランティア、春日市職員、地域包括支援センター職員、利用者代表、家族代表をメンバーとして2ヵ月毎の開催がある。会議の年度計画をたて、ホームの活動や行事の報告、地域高齢者にまつわる状況や課題、非常災害時の協力体制づくり等の提案、行政職員による質疑応答等が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	面会時に連絡ノートを通じて思いや意見を直接汲み取れるように努めている。意見箱の設置や運営推進会議、家族会等でも事業所への意見等を提案する機会を設けている。出された意見や苦情、不満に関しては、内容に応じてその場での回答や、職員会議等で周知検討、協議を行いサービスの質の向上に活かすなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月の誕生会や行事に地域住民やボランティアの参加がある。ホームからは近隣の保育園や小学校の行事、地域の運動会等に招かれ参加している。本年度は校区の小学校からリハビリ収集活動の成果として、車椅子と歩行器の贈呈があった。この活動は5年前より全校をあげて取り組まれ、贈呈時には新聞でも取り上げられるなどホームが地域住民にも広く知られるきっかけとなった。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	ホームが、安らぎの場となるように、職員、家族、地 域が一体となり、支援していく事を理念としている。地 域密着型サービスとなる以前より、管理者が、看護経 験を通じて感じた思いを基本に理念を作り上げ、地域 とのかかわりを意識して運営に反映させている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所やリビング内に掲示し、自然に目に入る工夫 がある。朝礼時や毎月のカンファレンス時に唱和した り、就業前や業務の合間に常に理念に立ち戻り、確 認している。地域とのかかわりを意識すると同時に、 日々の業務を通じて高齢者の暮らしを支えていく理 念の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	毎月の誕生会や行事に地域住民やボランティアの参加 がある。ホームからは近隣の保育園や小学校の行事、 地域の運動会等に招かれ参加している。本年度は校 区の小学校からリハビリ収集活動の成果として、車椅 子、歩行器の贈呈があった。この活動は5年前より全 校をあげて継続されてきたもので、開設当初から交流 を継続してきた成果が伺えた。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組ん でいる	外部評価の概要、インターネットによる開示等につい ては、家族会や運営推進会議にて発表している。前 回の評価結果について職員会議にて協議を行うなど、 質の向上への取組みがある。この過程で、記録様式 の改定や充実等の成果が見られた。今回の自己評 価も、職員に意見を聞きながら、計画作成担当者が 確認し意見をまとめて入力するなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	関係者による2ヶ月毎の開催がある。会議の年度計 画をたて、ホームの活動や行事の報告、地域高齢者 にまつわる状況や課題、非常災害時の協力体制づく り等の提案、行政職員による質疑応答等が行われて いる。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議に、市職員、地域包括支援センター 職員の参加がある。会議では、家族や地域住民から の質疑応答や意見交換もなされている。また、市が主 催する介護支援専門員研修への参加や、生活保護 課との連携、支援にまつわる日常的な相談等、密に 連携の機会を確保している。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	外部研修への参加と同時に事業所内で勉強会を開 催するなど制度の理解と普及に努めている。制度の 概要と利用手順等について、適宜説明が行なえるよ うに準備している。		現在、職員研修やパンフレット等の準備がなされてい ます。高齢者の権利や財産を守る制度の必要性は 高まると予想され、地域包括支援センターにも窓口が 設けられています。同職員が参加する運営推進会議 等でも、情報提供の機会を確保し、利用者、家族、地 域住民や職員にとっても有益な制度周知の機会とし て活用される取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	面会時に日々の状況や身体状況等を報告してい る。報告は口頭及び利用者毎の「連絡ノート」「金銭出 納帳」を使用して行い、内容や状況に応じての伝達 や、要望・意見の確認が相互に出来る様に工夫して いる。また、行事等の様子は、画像で見れるように利 用者毎のアルバムを作成している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	面会時に連絡ノートを通じて思いや意見を直接汲 み取れるように努めている。意見箱の設置や運営推進 会議等でも事業所への意見等を提案する機会を設け ている。出された意見や苦情、不満に関しては、内容 に応じてその場での回答や、職員会議等で周知検 討、協議を行いサービスの質の向上に活かすなどの 取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	本年度は職員の離職事例や異動が無く、馴染みの 関係が保たれている。緊急的な欠員の際も、利用者 へ安定したサービスの提供を行なうために、現任の職 員は合同カンファレンス等で、全利用者の情報を共有 している。日常的にもユニット間を往復し、自然と顔な じみの関係になれるように配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別、資格や経験の有無などによる制限は設けていない。本人の意欲や理念への共感、夜勤も含めて時間的・体力的に勤務が可能か否か等を考慮し、状況に応じて常勤、非常勤の枠(夜勤ができない等)で採用している。資格取得や自己実現等についても勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制がある。また、職員の福利厚生として夜勤時の夕食、朝食は全額、日勤の昼食費の半額を助成している。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止や成年後見制度、高齢者の権利擁護についての外部研修の受講および報告会等を実施している。		現在取り組んでおられる研修テーマを更に掘り下げて人権意識をより高めると同時に、高齢者に留まらない様々な視点や対象を取り入れた勉強会への参加、ビデオ学習等の機会を確保される取組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、事業所内で勉強会を実施している。外部研修については、情報を職員に周知し、希望を募ったり、職員のスキルや経験年数に応じて振り分ける等、適切に参加の機会を確保している。受講後は研修報告会を実施し、新しい知識の導入や情報の共有への取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	春日市の連絡協議会を通じて定期的な交流の機会を確保している。また、職員も自発的に他のホームへの見学や情報交換を行うなど、質の向上に向けた取組みがある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限りホーム見学を勧め、本人・家族が安心して利用できるように配慮している。緊急性が高い場合や、入院先から直接の入居を希望された場合は、管理者が面談に赴いている。新しい利用者にはできる限り職員が寄り添い、家族とも協力しながら不安を軽減し、他の利用者とも徐々に馴染めるように支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から料理の方法や、昔の風習等を学ぼうとする姿勢がある。また、相互にねぎらいの言葉をかけあうなど、生活を共にする者同士として、学び支えあう関係がうかがえた。また今年、看おくれた利用者の話をする職員の表情から、逝去後もなお、職員の心を支えている心境が感じられた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の関係者からの情報収集と利用者との日々のかかわりを通して、思いや意向の把握に努め、様式に記録している。計画作成担当者が中心となり、毎月のケアカンファレンス時に職員全員で意見を出し合い、本人の視点に立って検討している。また、利用者の言葉、行動や表情などの観察、分析などを記録し、情報の共有化に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、本人の希望や家族の意向等をまとめ原案を作成し、主治医への照会を実施している。医師の助言や合意を得た上で、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画の内容は、目標に加えて、具体的な対応や詳細な手順を明記し、関係者で情報を共有する取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月2ユニット合同のカンファレンスにて、利用者全 員の心身状況や支援手順の周知・確認の機会を確保 している。定期的な見直しとして、毎月のモニタリ ング・評価を行い、3ヶ月毎の介護計画の見直しを行 なっている。状態が変化した場合も同様の過程を 経て、現状に即した介護計画の作成がある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	個別の外出支援や家族が同行できない場合の通院 介助、入院にまつわる支援、買物等の個別外出等、 利用者・家族の要望に沿って可能な限り柔軟に支援 している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるように支 援している	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家 族が入居後の主治医を選択している。原則的にかか りつけ医の受診は家族対応とし、協力医・歯科医に よる定期的な往診と24時間の連絡体制をとっている。 管理者が看護師でもあり、皮膚科や眼科等の各医療 機関と連携をとりながら、各家族とも協力し適切に 支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化等についての意向を伺い、事業所 の方針と医療との連携体制について説明し、利用者 家族から同意を得ている。看取りについても利用者 の心身の状況に応じて、主治医を含めた関係者で話 し合いの機会を確保し、関係者で情報・方針を共有 しながらの支援している。この過程を経て、昨年は 看取り支援を行った。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者への接遇等については、勉強会やその都度 の指導等の取組みがある。職員の言葉かけは優し く、対応にも温かさが見受けられた。職員も個人情報 保護についての勉強会等で意識向上を図り、個人記 録等も適切に管理されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、その時その時の本 人の気持ちを尊重し、利用者のペースにあわせて対 応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	調理師免許を持つ職員が栄養バランスや利用者の好 みを等を考慮しながらメニューを作成し、調理や準備、後 片付け等を職員と利用者ができる範囲で協力しなが ら行っている。管理者は、「食」を健康の源と考え、無 添加の米や味噌等の食材を故郷である宮崎県から取 り寄せている。殆どの利用者は、自力で全量摂取され ていた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午前と午後、毎日入浴できるように準備し、希望に応 じて支援している。実際は隔日に入浴される方が多 い。あまり入浴を好まれない方にはタイミングを見計 らった声掛けやシャワー浴などを行い、定期的に清 潔保持の為に入浴の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	散歩、カラオケ、洗濯物たたみ、食事の準備や後片 付け等、毎日の生活の中で利用者本人の役割や楽し みを見出し支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見や行楽など定期的な毎月の行事外出を行って いる。個別でも日々の散歩、買い物、ドライブなど、そ の都度の要望や身体状況に応じて家族とも協力しな がら戸外へ出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	原則的に日中は開錠している。外出傾向が強い利 用者には職員が付き添い、極力、利用者の意向に沿 えるように支援している。職員の対応が困難な時間帯 については、利用者理解していただけるような働き かけを行い、ユニット間でも協力しながら対応している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導のもと避難訓練や消火器の 使用方法の確認等が実施されている。事業所内でも 避難方法の手順書を作成し、運営推進会議後の避難 訓練では、民生委員や隣家、地域の方を招いて、避 難経路や方法、手順について確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養バランスやカロリー、利用者の好みを考慮しメ ニューを作成している。キザミやミキサー等の食事の 形態など、利用者一人ひとりの身体状況に応じて対 応している。水分については、特に考慮し、一日1.0～ 1.5Lの補給を原則とし、食事・水分とも摂取量の記録 を行うなど適切に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	程良い採光で、全体的に広く明るいスペースになっ ている。季節感を感じる装飾や落ち着いた色調の壁 紙等、木のぬくもりを感じる落ち着いたインテリアで統 一されている。家具は、車椅子や歩行器の導線に応 じて配置してある。リビングにはソファーや畳スペース もあり「家庭」として、自然とくつろげる様に工夫されて いた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ヘッド、タンスが備え付けられており、テレ ビ、座いす、机、仏壇やマリア像など、利用者の生活 習慣を反映する馴染みの物が持ち込まれている。ま た、居室入口には表札を掛け、居室内にはフォトカレ ンダーを作成するなど、利用者のプライベートな部屋 である事を認識できるように工夫されていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号